

悲恋! 処女塚伝説

主な見どころ

東明の処女塚古墳を中心に、東西それぞれ約2kmの地に、二基の古墳、東求女塚と西求女塚があります。これら三塚にまつわる悲恋の伝説が伝えられています。このあたり葦屋の美しい菟原処女に、和泉の国から来た血沼壮士と、この地の菟原壮士の二人がせりあって求婚しました。彼らは太刀をにぎり弓を取って競ったといわれています。処女はそれを見て、私のために立派な若者を争わせたうえは誰とも結婚できない、あの世で待っていてしよう、と嘆きつつ死んでしまいました。その夜、処女を夢に見た血沼壮士は、彼女が好んでいたのは自分だと知って、後を追って死んでいきました。遅れた菟原壮士は、天をあおいでくやしがつた末に、また後を追って死んでしまいました。そして、三人の男女の死をあわれんだ人々が処女の墓を中心に東西等間隔に二人の男性の墓を築いたというのです。考古学では、街道沿いの三基の古墳は、築造年代にかなり差があるため、この伝えは史実ではなく、奈良時代の人々の説話だと見られています。しかし、ほぼ同じ距離で位置する古墳群に、万葉のロマンを感じながら歩いてみるのもいいものです。

魚崎八幡宮神社

旧魚崎村の氏神である、応神天皇を祭神とし、五百いお(八幡神社)ともよばれる。本殿背後にある朽ちた大きな松の切り株は、神依りかみよしの松と称され、伝説では三韓から帰国の際の海辺に上陸した神功皇后が、船を助もせつた浜辺の松のなごりだと伝えられている。1月18日厄除祭、5月5日神幸祭、15日例祭がある。また北側の五百池いおいけ公園内の北西角に西国浜街道の道標と道路元標けんびょうが残っている。

雀の松原の碑

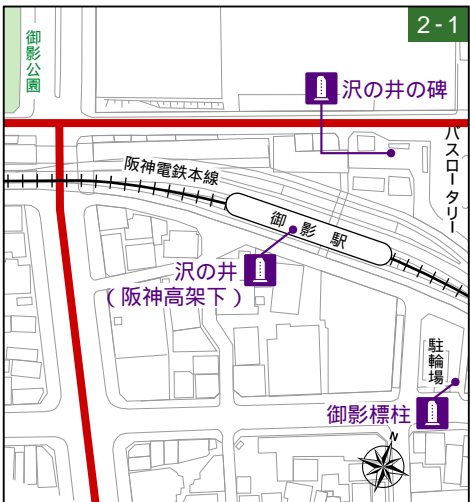
魚崎西町のちびつこ広場内に、古来の松林の景勝地にちなんだ歌が刻まれた2つの石碑がある。源平盛衰記の中にも山陽道沿いの名所として地名が記されている。雀合戦の伝説も残る。約200m南に道標がある。

東求女塚古墳

昭和57年1982年の発掘調査で、市内有数の大古墳。前方後円墳(である)ことが判明。4世紀末に築造された豪族の墓とみられている。

本住吉神社

表筒男(うわつち)も命・中筒男(なかつち)も命・底筒男(そこ)も命・神功皇后を祭神とする。三韓からの帰途神功皇后が難波近くまで来ると船が進まなくなるといって、占った結果、創祀された社伝にいう。大阪の住吉大社は、仁徳天皇の頃にここから移されたものであるため、こちらを本住吉もとすみよとして呼ぶのだと伝えられる。境内にあるおんむすの石の上部のくぼみに普段は雨水もたまらないが、毎年土用にならぬやふしきに水がわき出してきたと伝説されている。また住吉村道路元標けんびょう(もあ)も、5月4日5日にはだんじり祭がある。



沢の井

今も清水が湧いているが、神功皇后が化粧のために姿を映されたために御影の地名がでたと伝説する井戸で、市域文化財である。御影の地名は史実では、古代付近に鏡作部(かがみくり)があり、そこから異美(かがみ)の地名が生まれ、鏡に映す姿から御影と呼ばれたと考えられている。昭和60年(1985)阪神御影駅北側広場の整備に際して、広場の一面にこのモニュメントが地元によって建てられた。

西国浜街道の道標

国道43号の北側の歩道に2つの道標がある。一つは東御影の交差点、もう一つは住吉ステーションの道標(はその150m西にある)。

西方寺

境内には、御影の松という古来名勝をよんだつ雀の歌碑があり、その脇には、代目の若い松が植えられている。

西国橋と徳川道起点

本街道筋に当たっているためにつけられた橋名である。幕末に、開港場となった神戸の居留地の外国人と大名行列との衝突をさけるために、石屋川から明石の大蔵谷に至るまで、西国街道の迂回路(徳川道)が建設された。この西国橋の東詰川上に分岐点がある。

処女塚古墳

4世紀後半古墳時代前期の築造とみられる全国でも数少ない前方後円墳である。全長約65mで、箱式石壇はこぎせつ(かんや)勾玉(まがたま)などが出土した。公園内には万葉の歌人、田辺福麻呂の歌碑がある。

倚松庵

小説「細雪」にも登場した谷崎潤一郎の旧宅もこつた場所から約150m北へ移築、一般公開されている。土曜のみ10時〜16時(無料)078(0)422-0700

